

様式1(主な取組)

活動指標名	大学院大学周辺整備に係る検討委員会の開催				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	1回	0回	0回	0回	0回	1回	0.0%	0	大幅遅れ	<p>令和3年度はOIST、恩納村、うるま市、沖縄県の取組状況について情報共有を行った。また、課題のあるプロジェクトについて意見交換を行い、今後の対応方針や周辺整備以外のことについても連携できる案件等について検討を行った。</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>OISTの設立から10年経過するなど、OIST周辺の環境も変わってきており、変化した状況や新たなニーズ等について、現場レベルで把握する必要があったことから、令和3年度は検討委員会に代え、関係市町村等との意見交換や情報交換を実施した。</p>
活動指標名	地域コミュニティとの交流活性化支援				R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	実現可能性の調査・整理	・関係機関との調整	—	100.0%			
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・OIST拡充に伴う新たなニーズを踏まえ、周辺整備に係る具体的取組の支援に向けた検討を行う。 ・周辺整備計画の取組項目について整理を行い、関係部署との連携を図る。 						<ul style="list-style-type: none"> ・OIST拡充に伴う住宅整備等取組について、恩納村が実施している土地造成計画の取組を確認し、今後の具体的取組について検討を行った。 ・周辺整備計画の取組項目について、課題が残されている取組について関係部署と意見交換を行う等、連携を図った。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・ OIST関係者は現時点で1,000人を超え、今後も規模拡充が見込まれる。(OIST中期計画・梓組文書Ⅱの目標である教員100名規模となった場合、関係者数は1,600人程度となる見込み)。
- ・ OISTは、今後も関係者数の増加が見込まれることから、学内のみならず学外にも住宅需要が高まることが予想される。

○外部環境の変化

- ・ OIST近隣の谷茶地区での住宅整備については、土地造成に係る地権者の理解が得られており、恩納村が土地取得の取組を実施している。
- ・ 住宅整備に係る民間投資を促すには、地権者、区民等の合意形成を整えるほか、住宅需要や町作りのコンセプトを示した上で事業手法等を検討する必要がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ 関係部署との意見交換を行う等により、OIST拡充に伴う新たなニーズを捉え、周辺整備計画の各取組に限らず、OISTと地域の連携が推進される活動等を含め、ニーズに適した取組等を促す必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・ 関係部署との意見交換を行い、OIST拡充に伴う新たなニーズを把握する。
- ・ 周辺整備計画の各取組に限らず、OISTと地域の連携が推進される活動等を含め、ニーズに適した取組等を促す。